

平成 26 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日時：平成 26 年 6 月 26 日（木）18：00～19：15

場所：大阪医療福祉専門学校 10 階 1003 教室

司会：猪尾事務局長

書記：宇野事務部長

出席者 敬称省略

外部：湖崎 淳(業界代表)・中山 昭彦(高校代表)・田中幸恵(近隣関係者代表)・谷 真由美(保護者代表)
段上 靖治(業界・卒業生代表)

※三原 修(業界代表)欠席

内部：武田 裕(学校長)・橋本 勝信(常務理事)・

猪尾 卓也(事務局長)・千葉 一雄(教務部長)・赤松 滋子(教務部長)・宇野 正明(事務部長)

1. 学校長より、開催の挨拶

今年 1 月より故坂本前校長より引継ぎ学校長に就任した。法人内の大学院大学の学長も兼務している。今後も本校の理念である実学教育・人間教育・国際教育の実現を目指し、社会のニーズに応えるべく人材の育成を図って生きたい。今後ともご指導の程よろしくお願ひしたい。

2. 常務理事より、挨拶

本校は「5つの数字」①学生募集定員充足率 100%②就職率 100%③退学率 4%以下④学費未納ゼロ⑤国家試験合格率 100%達成を目標に運営しているが、昨年度は全ての項目に対し、成果をあげることができた。今後とも委員各位のご指導を賜り、更なる成長を図っていききたい。本日は是非とも忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

3. 事務局長より、下記配布資料の確認を行う。

- ・委員会プログラム
- ・学校関係者評価委員会名簿
- ・職業実践専門課程認定に関する資料
- ・平成 26 年度重点目標と達成計画
- ・平成 25 年度学術研究発表一覧
- ・平成 25 年度同窓会報告
- ・平成 25 年度卒業研究発表会プログラム
- ・フジサンケイビジネスアイ抜粋
- ・学園新聞
- ・平成 26 年度学校関係者評価

4. 事務局長より、配布資料の学校関係者委員会名簿により、湖崎 淳(業界代表)・中山 昭彦(高校代表)・田中幸恵(近隣代表)・谷 真由美(保護者代表)・段上 靖治(業界・卒業生代表)

及び学内委員千葉 一雄(教務部長)・赤松 滋子(教務部長)・宇野 正明(事務部長)を紹介する。

なお三原 修(業界代表)については、業務により欠席のため、事前に意見をいただいているので、後程披露するとの報告を行った。

5. 事務局長より、「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定に関する報告を行った。

委員各位のご協力により、平成 26 年 3 月 31 日付け、理学療法士学科昼間部・夜間部、作業療法士学科昼間部・夜間部、言語聴覚士学科の 5 学科が職業実践専門課程としての認定を受ける事ができた。残る視能訓練士学科 3 年生、診療情報管理士学科についても、平成 26 年度卒業生の輩出を踏まえ、平成 27 年度申請予定である。

別紙資料の通り、全国の認定学校数は 472 校となり、全体比率は 14.7%となった。

文部科学省による現状分析としては、各認定要件に関する各学校・各学科の取組の実態は多様であり、今後、認定校の実態調査を実施する予定である。また各認定要件に関する先進的取組を推進する必要があるとのことである。

6. 事務局長より、平成 25 年度本校が実施した自己点検・自己評価内容を、下記 11 項目についての概要を説明する。

- ・教育理念・目的・育成人材像について
- ・教育活動について
- ・教育成果について
- ・学生支援について
- ・教育環境について
- ・学生の募集と受け入れについて
- ・財務について
- ・法令等の遵守について
- ・社会貢献について
- ・国際交流について

以上 11 項目

7. 平成 26 年度重点項目の説明

事務局長より、別紙重点目標と達成計画により、人材育成、業務効率化、FD、国家試験対策、退学率の低減、卒業生の社会的活躍及び評価の把握、施設・設備の更新計画、防災対策、学生募集、就職目標、学費未納対策の項目単位で目標と達成計画・取組方法について説明した。

特に課題となるのは、退学率の低減であり、学生一人一人をしっかりと対応し、進路変更も視野に入れた指導を図っていくとの説明を行う。

千葉教務部長より、教員の学術研究発表実績・同窓会活動・卒業研究発表会報告を行った。

特に同窓会活動については、学科単位の活動から学校全体としての取組みに発展させている。表彰制度を設ける等、卒業生の学術発表や社会貢献活動を支援していきたい。また卒業研究発表会については毎年 12 月に大阪中央公会堂で実施している。全ての学科が 1 年間の時間を費やし研究に励んでおり、今年度は是非とも各委員各位のご参加をお願いした。

学校長より、学長を兼務する滋慶医療科学大学院大学の取組みについて説明を行った。医療管理学研究科・医療安全管理学専攻修士課程を設け、医療の質・安全の向上を目的とする旨の説明を行った。

8. 学校関係者評価シートの記入方法説明

11 大項目を 48 項目に分類した中項目を点検・評価項目を 3 段階で自己評価し、点検・評価項目総括と特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）を文書化した評価シートによる、本校の 4 段階評価及び

意見について、来月半ばを目途に提出を依頼した。

9. 質疑応答

湖崎 淳

眼科業界の代表の立場として、視能訓練士の認知度の低さを懸念している。また眼科医 14,000 人に対し視能訓練士約 10,000 人と絶対数も不足している。女性が大半を占めており、家庭に入った視能訓練士が現場復帰しやすい環境を整えていく必要がある。学校としても、業界と連携し実態に合ったカリキュラムを構築してほしい。また高等学校に対する職業理解を高める活動に期待したい。

赤松教務部長より、本校は地道な活動により 1 年制・3 年制ともに定員を充足している。視能訓練士の認知度を高める為に、全国視能訓練士学校協会においても地道な活動を実施しているが、起爆剤は見当たらないのが現状である。人材バンクも存在はしているが、なかなか機能していないのが現状である。

中山 昭彦

今の学生に職業理解を求めるのは難しいかもしれない。表現は悪いが認知力が乏しくイメージ化が出来ない。学校選択も校舎が素敵とか視覚に訴えるイメージで選ぶ学生が多い。また学校長の立場として、高等学校の現状の基礎学力の低さに苦慮しており、貴校の入学前及び入学後の導入教育及び卒業研究発表会の取り組みに興味を持った。特に卒研については、研究に取り組む姿勢及び発表能力の向上に有益かと思われる。本校でも勉強の仕方、ノートの取り方から指導しているがなかなか成果に結びついていないのが現状である。

退学については、4%の目標設定が妥当なのかどうか？大阪府立高校においては 2%程度が標準とされている。一般教養の段階から専門的な講義に入る事に対応するだけのモチベーションをしっかりと持った学生が入学しているのか少し気になる場所である。入学時点での志望のミスマッチを防ぐ手立てが必要かもしれない。

田中 幸恵

保護士として地元の子供と接しているが、貴校の取り組みに感動を覚えた。本来家庭で行うべき教育を貴校がやっていると思う。貴校の理念の一つである人間教育は教育の根幹と思われる。

谷 真由美

保護者の立場として、しっかりした教育理念に共鳴し、入学させた経緯がある。娘も最終学年となり、是非とも目標達成してくれることを望んでいる。

段上 靖治

卒業生の立場として、現在講師として貴校の学生指導の一端を担っているが、是非とも業界と学校を連携させ即戦力の輩出に貢献できればと考えている。

事務局長より、三原先生については、本日、業務のため欠席されているが、事前に下記の通り意見をいただいている。

三原 脩

業界代表として、貴校と連携を取り業界の発展に努めてきているが、貴校はしっかりした教育理念を

掲げ実践しており、素晴らしいと思っている。9月6日(土)に実施される貴校の保護者会においても、実習施設代表の立場でお話させていただく機会をいただいている。実習生として貴校の学生を受け入れているが、昨年の学校関係者評価委員会において、学校で学んでいるはずの基礎知識の内容が臨床現場で活かされていないのではないか？ 基礎科目どうしの繋がりが乏しく、患者の現象が理解できていないのではないか？ との指摘に対し、貴校は学内教育の場面でいかに臨床に即した内容で考えることができるかを課題として前向きに取り組んでおられると思う。しかしながら、そういった部分を補うのが臨床実習であることは十分承知しており、責任を持って貴校と連携を図り学生指導に当たっていく所存である。

10. 事務局長より、終了の挨拶

今回の委員会でいただいたご指導を十分にいかし、次回の委員会で報告させていただきたい。
今後とも一層のご指導をお願いしたい。

以上